

◆甲状腺機能低下症◆

【甲状腺ホルモン分泌のしくみ】

甲状腺は、喉近くの気管に付着している小さな器官で、甲状腺ホルモンを産生・分泌しています。

甲状腺ホルモンの産生・分泌は、脳の視床下部から放出される視床下部ホルモンや、下垂体から放出される甲状腺刺激ホルモンによって、調節されています。

犬の甲状腺機能低下症では、甲状腺の炎症（リンパ球性甲状腺炎）や、萎縮（特発性甲状腺萎縮）が主な原因となって甲状腺ホルモンの産生・分泌が減少します。（その他、視床下部、下垂体に原因がある場合もあります。）

【甲状腺ホルモンのはたらき】

エネルギー代謝、糖代謝、脂肪代謝、たんぱく質代謝などさまざま、生きていくために必要なはたらきをしています。

◆◆甲状腺ホルモンのはたらきが低下すると◆◆



など、さまざまな症状がみられます。

【診断】

上記の臨床症状と、スクリーニング検査として、まず血液中の T4（サイロキシン）を測定します。この値が低かった場合、さらに fT4（遊離サイロキシン）、TSH（甲状腺刺激ホルモン）の値をしらべます。T4 は、甲状腺以外の各種疾患で低くなることがあるので、この3つのホルモン濃度を測定し、そのバランスを評価することで確定診断をすることが必要です。

【治療】

確定診断をおこない、甲状腺ホルモン製剤の補充療法を開始すれば、予後は良好です。ただ、治療に対する反応には個体差があったり、時間がかかることもあります。また、場合によっては一生涯継続治療が必要なケースもあります。いずれにせよ定期的な検査で、適切なコントロールがなされているかをチェックして、病気とうまく付き合っていくことが大切です。